

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学部生に受講機会を提供するため、全学共通の「共通教育科目」として「データ・AIと社会」を開講した。令和3年度は秋学期のみの開講であったが、文系・理系によらず、すべての学部から1,010名の履修があり、1年次生が61.9%を占めた。授業アンケートによると、当該科目の履修理由は「授業内容に興味があった」が68.1%であり、学生の関心と学習意欲の喚起は適切であった。また、本科目の特徴を反映して「オンデマンド型授業のため」も18.2%と高かった。修得状況については、全体の80.4%にあたる812名が、全15回の小テストを経て単位修得に至っており、リテラシーレベルとして適切である。
学修成果	本科目は、データの数理的な扱いの基礎の修得や、データの収集法、AIの基本的な仕組み、社会におけるデータ・AI活用例、法律的・倫理的な問題点、人間社会・職業への影響、その予想される将来など、学生が幅広く関心をもって学習できる内容としている。この学修成果について、全15回の各授業で小テストを実施した結果、各回とも概ね80～90%程度の得点率となっているが、数理色が強い授業回では若干低い。この点については、今後の実施結果も踏まえ、必要に応じて改善する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本科目で設定する4つの「身に付く力」について授業アンケートを実施したところ、「とても身に付いた」「身に付いた」と回答した学生の割合は以下のとおりであった。 ①データサイエンス・AIの利活用に関する幅広い知識：(94.4%) ②データを読み、扱い、説明するための数理的な基礎能力：(76.8%) ③基本的なAI技術の理解力：(91.9%) ④データ・AIに関する倫理的、法的、社会的な問題点の理解力：(90.8%) また、不明点を解消する手段を問う設問では、「不明点は一切なかった」と回答した学生の割合は72.4%であった。受講者の約80%が単位修得に至っていることや、学生の学習実感から、学生の理解度は適切な水準にある。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートにおいて、後輩学生への受講推奨を問うたところ、77.9%が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。数理色が強い授業回があることから、文系学部の学生における推奨度が若干低いものの、概ね肯定的な結果であった。本科目開講初年度としては満足できる結果ではあるが、学生からの声を検証し、さらに推奨度が高まるよう、改善していく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本科目は、令和3年度後期からの新規開講であったが、本科目はオンデマンド型としており、授業の質を確保しながら、1,010名全員を受け入れることが可能であった。令和4年度以降は、さらに多くの学生に受講機会を提供するため、前期・後期において同一の内容で開講する。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学生の進路支援を主管する「進路・就職支援センター」と連携し、今後、本科目の修了者の進路先や業務状況、就職先からの評価等の把握を進める。また、「IR推進室」において従来から実施している「卒業生アンケート」の設問を見直し、修了者の状況を把握するとともに、卒業生から意見を聴取する。これらを踏まえて、より社会の実情にあった授業内容として、改善・充実させていく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本科目を社会の実情にあった内容としていくためには、産業界との対話も必要である。このため、本科目を所管する「初年次教育センター」と同じく、「共通教育推進機構」内にある「キャリア教育センター」と連携し、インターシップ科目やPBL科目等で協力関係にある企業や自治体等から、本科目の意義や実施状況を踏まえた意見聴取を定期的実施していく。得られた意見は、担当者会議での共有をはじめ、全学としても共有する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	リテラシーレベルのモデルカリキュラム(導入・基礎・心得)に準じた内容としながらも、全学部の学生が関心をもって学習できるように、8学部16名の教員により、「人工知能の創造性」「AIの軍事利用」「クチコミ分析」など、数理・データサイエンス・AIにまつわる社会的側面についても幅広く触れる内容としている。授業アンケートによると、こういった社会的なテーマを取り上げた授業回が印象に残ったとの声が多数見受けられる。また、この科目の受講を契機に、さらに実践的な内容を学習したいとの学生からの意見もあり、本科目が、学生の学ぶ意欲の喚起につながっている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	令和3年度のすべての授業が終了した後、「初年次教育センター」において担当者会議を開催し、履修者の状況や小テストの実施状況、授業アンケート及び各授業回での学生からの問い合わせ状況を踏まえ、授業の検証を行った。本科目はオンデマンド型科目であり、学生は、教員が丁寧に作成したLMS上の講義動画、資料・課題にしたがって、各自のペースで学習を進めたが、その理解度は高く、また、質問は操作に関するものが数10件程度と、適切な水準であった。なお、文系学部の学生から、数理的な内容について、より詳細な説明の要望があったため、改善を検討する。

② 自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.kyoto-su.ac.jp/features/sy_ai.html